

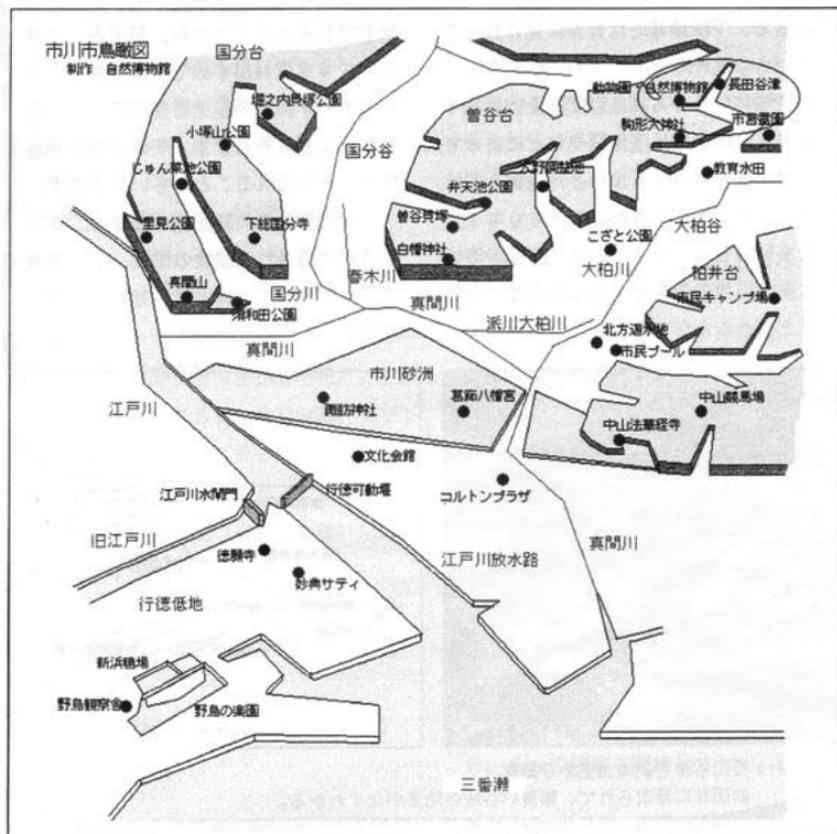
市川自然博物館

2・3月号

(通巻84号)

だより

自然のVI『長田谷津』 ある場所



自然のVI『長田谷津』 ある場所

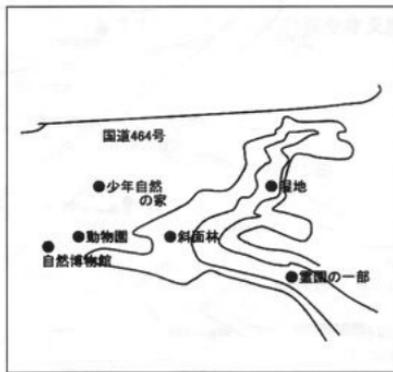
市北部・大町地区の長田谷津は、かつては「大町自然公園」として、現在は「大町公園・自然観察園」として親しまれています。新緑の頃やホタルの季節、秋の紅葉、冬の野鳥観察など、さまざまな機会に大勢の人が訪れる身近な自然の公園です。そして、長田谷津には市内有数の豊かな自然環境が残っています。

●谷津の環境

長田谷津では、その名のとおり「谷津」と呼ばれる地形が見られます。谷津は、平坦に広がる台地に刻まれた細長い谷のことで、下総地域では普通に見られ、市内でも中部から北部、大柏川流域や国分川流域にいくつも刻まれています。もっとも、その多くは宅地開発などによって景観が改変されてしまい、一見するだけでは谷津であることがわからなくなっていました。そんな中で、長田谷津は本来の谷津の姿をとどめる市内唯一の場所とすることができます。

谷津の特徴は、台地から谷底へ至る高低差十数mの斜面に成立した林（斜面林）と、谷底に広がる湿地帯にあります。台地上でしみ込んだ雨水が、斜面裾から湧水となって流れ出すので湿地帯が形成されるのです。この湿地帯を稲田として利用することもあります。その場合、「谷津田」と呼ばれることが多いようです。

木々に抱かれた斜面林の環境と、豊富な湧水に潤された湿地の環境、この両者が互いに接して一体となっているのが、谷津という場所なのです。



△左：長田谷津を斜め上空から撮影。

斜面林に緑取られて、細長い谷底の地形がよくわかる。

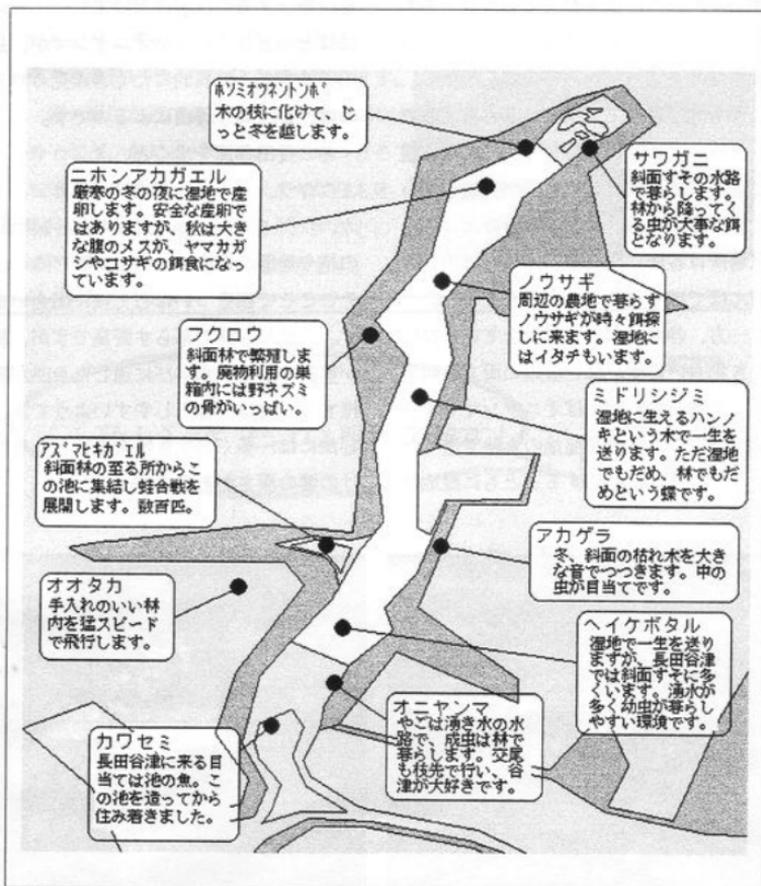
右：左写真の湿地、斜面林の区分を線画であらわした。

●豊かな生態系

長田谷津では、生き物たちによって様々な「できごと」が、日々、繰り広げられています。その一部を図にしてみました。とても書ききれぬものではありません。生き物による「できごと」の多さは、そのまま生態系としての豊かさと言っていいでしょう。いかに多種多様な生物が住み着き、互いにかかわり合っている

かが反映されているからです。

長田谷津での「できごと」の多さは、三番瀬～江戸川放水路一帯に匹敵します。小さな市川市の北と南に豊かな自然が残されているわけです。そして、共に水辺と陸地の接点に位置する場所であることが、そういう環境の生物生息空間としての大切さを物語っています。



「できごと」の宝庫・長田谷津

●林と湿地を行き来して

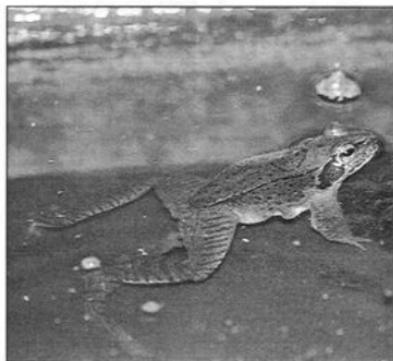
長田谷津には、そこを林としてだけ位置づけて暮らす生物がいます。オオタカやフクロウがそうですし、例えばジムグリというヘビは、名前の通り地面に潜ってネズミを捕らえるので、完全に林の区域だけで暮らしています。

長田谷津を湿地とだけ位置づけている生き物もいます。水路や池にいる魚は当然ですが、その魚を捕らえるカワセミも、長田谷津に姿を見せるようになったのが大きな池を造ってからなので、湿地の、しかも池が目当てで来ていると言えるでしょう。ニホンアカガエルも、卵から親に至るまで湿地だけで生活が完結しています。ですから、ニホンアカガエルの生息場所は谷津に限らず、かつては市内の田んぼで広く見ることができました。

一方、谷津でなければ生きていけない生き物もいます。林と湿地の両方を利用する生物です。例えばオニヤンマです。幼虫（やご）時代を湿地の水路で送ったオニヤンマは、羽化するとともに湿地暮

らしに別れを告げ、林へと向かいます。餌となる虫の多い林内で成熟し、その後は再び湿地へ向かうのですが、オニヤンマが翅を休めたり、あるいは交尾の場とするのはいずれも木の枝です。オニヤンマの成虫にとっては、長田谷津の斜面林こそが生活の場なのです。湿地を使う幼虫時代、林を使う成虫時代——その両方を可能とするのは谷津だけです。市内ではほとんど見られないオニヤンマが、長田谷津でのみ特異的にたくさん見られるのは、そういう理由によるのです。

冬の長田谷津を歩くと、メジロやシジュウカラ、あるいはホオジロやカシラダカ、ウグイスといった鳥たちが、斜面林の梢や地面から次々に湿地に舞い降り、そこそこで餌をついばむ光景に出会います。いずれも林で暮らす野鳥ですが、餌が豊富な湿地や水浴びに適した水路が隣接する谷津は、暮らしやすいようです。谷津には、多くの生き物を受け入れるだけの懐の深さがあります。



△ニホンアカガエル



△オニヤンマ



街かど自然探訪

おじゃまします!

いなごしまち

稲沼越田丁・国分川調節池

国分川から春木川の流路の分岐点付近にある大きな池が、国分川調節池です。大雨が降った時などに増加した川の水を一時的に貯めておく、水害を防ぐための治水施設ですが、水辺に集まる野鳥を観察できる良いポイントにもなっています。

春～夏にかけては、セッカやオオヨシキリなど、冬にはハシビロガモやコガモなどのカモ類や、時にオオタカなども姿を見せます。ゴイサギやアオサギなどのサギの仲間は、一年中観察できます。



博物館で

こんないきもの飼ってます!



カワニナ



飼育展示で人気があるのはよく動くもの、と思われがちですが必ずしもそうではありません。親が先に行ってしまうても、カワニナの前には幼児が動かずにいることがあります。幼児は、蓋のしていない1cm程の水を張ったバットに転がっているカワニナをつついたり、摘んでみたり…、熱心にやっています。あまり動かないのが逆に怖くないのでしょうか。カワニナには気の毒ですが、ちょっとしたふれあいコーナーになっています。



くすのきのあるバス通りから

NO. 30 今週の観察は…

冬枯れの景色と春の気配

このところの寒さのせい、近所のバショウやクワズイモが霜枯れしてしまいました。暖くなれば立ち直るのですが。

何か変わった事がないものかと散歩をしたり、買い物ついでに寄り道をしたり、はてはカエルでも掘り当てようと庭をシャベルで掘ったりしましたが、残念ながら全部外れました。街路樹は強く剪定され、残った枝や幹にひょっとしたらアオスジアゲハのサナギがついていないかと、ずいぶん見て歩きましたが、いま

せんね。

庭にくる鳥に新顔が現れました。「ヒヨじゃない鳥がきた。茶色いよ」という綾乃の声。見ると、ツグミでした。

ロウバイは咲き終わりましたが、ウメはまだのようです。南側の塀の外は、風がよけられて日もあたります。カキドオシに似た花が咲いています。図鑑にも出てないので、園芸店で売られているものかもしれません。近所ではスミレも咲いていました。(水垣麻理子さん)



むかしの市川



このコーナーでは、博物館が1986年に行ったアンケート調査の結果から、むかしの市内の様子を紹介しています。

(原則として回答は原文のまま掲載)

・国府台近辺は野砲兵舎が3個連隊あって軍人の街であった。家の囲りは梅林、桃林があり民家はまばらであった。厩あげなどは練兵場で遊んだ。江戸川から入った堀でフナ、ナマズ、ウナギ、タナゴ、しじみなどが取れた。(国府台)

・法華経寺の参道は石だたみで、周辺は、マツ、杉、竹などでおおわれていて、民家(農家)もまばらで、静かな所だった。・中山小学校の東側に池があり、フナ、クチボソ、ざりがに、食用がえるなどがいた。子供たちは、いかだを作り、よく遊んだ。・駅下は、ほとんど田んぼで、遠くに原木の海が見えた。(中山)

・現在の市川駅南口(大洲方面)、新田地区。たんぼや原っぱがあって子供仲間とあそびまわった。(市川南)

観察

ノート

◆大町公園より

- ・ジョウビタキを見ました(11/5)。ヨシの茎にとまって、ヒッヒッと鳴いていました。アオジも増え、野鳥観察の楽しい季節になりました。
- ・カシラダカを見ました(11/18)。たくさんのアオジとちょっとのホオジロに混じていました。
- ・ヒサカキの枝に黒い実がびっしりついていました(12/8)。また、今春に咲くつぼみも、ずいぶん目につきました。
- ・ツグミを見ました(10/22)。十羽ほどの群れが、谷の上空を何回も通過してきました。

金子謙一(自然博物館)

- ・ウラギンシジミを見ました(12/11)。今年も常緑樹に翅をとじて越冬している個体が見られる時期になりました。

清野元之(自然博物館)

- ・キクイタダキを見ました(10/3)。メジロの群れに混じてチョコチョコとせわしく動いていました。

小川 晃(自然博物館)

◆大野4丁目周辺

- ・カワセミを見ました(12/27)。駒形神社の前の三角の池で小魚を3匹捕まえていました。

岡野谷歩実さん(大野町在住)

◆堀之内貝塚周辺

- ・ツグミを初認しました(11/4)。
- ・フクロウは、相変わらずいつものシロダモの中で寝ていました(12/15)。

◆里見公園より

- ・ハヤブサを見ました(11/9)。いきなり低空で現われ、ドバトに襲いかかりましたが致命傷をあたえるまでにいたらず北方向へ姿を消しました。
- ・アトリを見ました(12/8)。アトリの群れに混じてウソが1羽いました。

◆小塚山公園周辺より

- ・カワラヒワを見ました(11/23)。100羽以上の群れをつくっていました。
- ・ルリビタキを見ました(11/24)。
- ・ウソの鳴き声をききました(11/30)。

◆じゅん菜池公園より

- ・アメリカヒドリを見ました(10/19)。急に数を増やしたヒドリガモに混じていました。
- ・ユリカモメを初認しました(11/2)。

◆国府台江戸河川敷周辺より

- ・アオバトを見ました(11/10)。斜面林のエノキにとまっていた。1998年以来的観察です。

以上 根本貴久さん(菅野在住)

◎12月に入るとぐっと冷え込むようになり、5cmの積雪も記録しました。



行 事 案 内



観 察 会

申し込みが必要な行事です。

○水と土の観察会…大人向けの内容です。身近な自然をじっくりと観察し、地形やがけ、市内の河川環境の特徴などについてわかりやすく解説します。内容は大人向けですが、親子での参加もできます。 定員:先着 20名

テ ー マ	日 時	場 所	受付開始日
低 地 の 特 徴	3月9日(日)午前	真 間 川 周 辺	2月15日～

〒申し込み方法〒

往復はがきに、参加者全員の住所、氏名、年齢、電話番号、参加したい行事名を明記の上、自然博物館までお申し込みください。

散 策 会

お申し込みの必要はありません。

市内のいろいろな場所をゆっくりと散策しながら、四季それぞれの自然を楽しみます。

*時間 午前10時～11時30分

*集合場所などについては、博物館までお問い合わせください。

テ ー マ	日 ち	場 所
早 春 の 川 原	3月16日(日)	坂川旧河口



長 田 谷 津 ボ ラ ン テ ィ ア

雨や大風など、天候不良の場合は中止です。

湿地の環境整備をお手伝いしていただきませんか。

- ・日 時 3月23日⑩、午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口
- ・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もありますので、作業内容や身支度などについて、ご面倒でも、まずは博物館にお電話でお問い合わせください。

野草名札付けのお手伝いをしていただきませんか。

- ・日 時 3月2日⑩ 午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口
- ・はじめて参加される方は…まずは博物館にお問い合わせください。

臨時休館のお知らせ

2月18日⑩～21日⑤

展示室整備のため臨時休館いたします。

動植物園・自然観察園は

平常どおり開園しています。

市立市川自然博物館だより
 第14巻 第6号 (通巻第84号)
 発行日/平成15年2月1日
 編集・発行/市立市川自然博物館
 〒272-0801 千葉県市川市大町284番地
 ☎047(339)0477
<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/nature/>